

## シェア工房経営に適した木工旋盤でのものづくりプログラムの考案

—木製品を「つくる」「使う」「観る」の観点から—

森と木のクリエイター科 木工専攻 横井 清

### 1 背景

私が木工旋盤と出会ったのは、木軸ペンを製作するワークショップだった。それ以降、木工旋盤で木製品をつくる楽しさや、自身で製作したものを生活の中で使う喜びを知った。

私は今後、木工旋盤を中心としたシェア工房を愛知県豊川市で開業する。コンセプトは『地域の人たちに休める場を提供する』ことであり、安全講習に参加した会員による工房利用、一般の方向けのワークショップの実施、森の恵みから成り立つ木製品の販売を柱として経営していく。さらに、木工を通して、地域交流を図ることにも尽力していきたいと考えている。

このようなシェア工房経営における場づくりや地域交流のために、木工旋盤でのものづくりプログラムを「つくる」「使う」「観る」という観点から考案したいと考え、課題研究で取り組むこととした。

### 2 研究目的

(1) 木工旋盤でのものづくりプログラムの考案

ものづくりの楽しさを伝える、木製品への関心を高める、地域との関係づくりという点での妥当性を検証する。

(2) プログラムを運用するためのノウハウの習得

作業工程や時間を考えた上で、プログラムを安全に実施する方法を確立する。

### 3 研究方法

(1) 木製品を「つくる」「使う」「観る」の観点からプログラムを考案し、実践する。

- ・「観る・使う」の観点→実演
- ・「つくる・使う」の観点→ワークショップ

(2) それぞれのプログラムを安全に運営するために、作業工程ファイルや必要物品一覧を作成し、プログラム内で使用する。

### 4 実践内容

(1) 「観る・使う」の観点から

実演①・②

【内容】①一輪挿し製作 ②ランプシェード製作

【場所】赤坂台介護サービス喜ら里〔愛知県豊川市〕

【目的】●施設利用者との交流

●地域との関係づくり

### <実践の経緯>

開業地担当の音羽商工会に、木工旋盤でのものづくりを通して地域の高齢者施設との交流を依頼した。その結果、赤坂台介護サービス喜ら里様との繋がりを得られ、実演する機会をいただいた。

施設担当者との事前打合せでは、「施設内で利用者が共有して使用できるもの」という要望があり、1 回目は一輪挿し、2 回目はランプシェードの実演が決定した。実演はデイサービス利用者のレクリエーション時間の 50 分間となった。

### <実演① 一輪挿し：6月6日（月）>

当日はデイサービス利用者 26 名、職員・外部関係者 9 名の 35 名の方に一輪挿しの実演を観ていただいた。

施設担当者の鈴木さんが司会進行してくださり、利用者の方々との和やかな雰囲気を実演できた。今後の交流の話をいただき、10 月に 2 回目の実演をさせていただくこととなった。



施設の様子



職員のサンディング体験

### <実演② ランプシェード：10月18日（金）>

当日はデイサービス・宿泊施設利用者 35 名、職員 7 名の 42 名の方にランプシェードの実演を観ていただいた。

2 回目の実演では、利用者 1 名にもサンディング体験をしていただいた。加工前の木材や加工後の作品を手にとってもらい、木に触れる時間を多くし、触覚への刺激を促すように実践した。



利用者のサンディング体験



木に触れて触覚を刺激

以下は「観る」観点での実践から得られた利用者様・施設担当者様からの生の声である。

## <利用者様>

『目の前で本物を観られるのは凄くいいね』  
『スベスベだね～、気持ちいいね～』  
『今日、デイサービスに来てよかった』  
『100年生きてきて、始めて観ました』

## <施設担当者様>

『デイサービスは「非生産的」な施設。そこでものづくりをして多くの人が喜んでくれたのはとても良い催しだった。良い縁をありがとう』  
『これからも「お互い様」の関係で』  
『一緒にご近所回りをしましょう』

## (2)「つくる・使う」の観点から

### ① ワークショップ

【内容】 つくって使おう！木軸ペン  
【場所】 岐阜県立森林文化アカデミー「翔楓祭」  
〔岐阜県美濃市〕  
【目的】 短時間、多人数に対応し、その場で使うプログラム内容の考案

「つくる・使う」の観点から、木軸ペンのワークショップを翔楓祭で実施した。木軸ペンをつくるだけでなく、美濃和紙のレターセットで大切な人へ手紙を書く内容までのプログラム編成とした。つくったものをその場で使うため、参加者の感想を直接聞くことができると考え、実践することとした。参加者が自作した木軸ペンを嬉しそうに使い、真剣に手紙を書いている姿が印象的だった。



刃物による木軸加工



自作のペンで手紙を書く

### ② ワークショップ

【内容】 寄せ木でクリスマスツリーをつくらう！  
【場所】 JR岐阜駅アクティブG〔岐阜県岐阜市〕  
【目的】 ●季節イベントとコラボレーションしたプログラム考案  
●子どもを対象とした技術指導とものづくりへの動機付け

12月初旬に、初開催となる「森のクリスマスマーケット」というイベントに参加した。「クリスマスをテーマにしたイベント内容や展示方法」というイベント主催者の方針に見合うプログラム内容を検討した。試作を繰り返した結果、クリスマスカラーを表現した寄せ木で、クリスマスツリーを製作する内容に決定した。

また、子どもが木工旋盤を楽しめるための工夫やものづくりの楽しさを知るきっかけとなるよう、

製作工程や刃物の使い方を検討した。

ワークショップ当日は、小学生4名の参加があった。子どもたちには後ろから刃物を支え、刃物の角度や切削量を調整しながらすすめた。

小学生のアンケートに、『難しかったけれど楽しかった』『またやってみたい』『もっと木工旋盤を知りたくなった』というコメントがあり、今回の木工旋盤体験を通して、ものづくりの楽しさを伝えることができた。



刃物を支えての加工



完成後の子どもたち

## 5 まとめ

### <研究目的から>

木工旋盤でのものづくりは、実演・ワークショップに関わらず、目の前で形が変化していく様子を観ることができることに大きな価値があり、ものづくりの楽しさを伝える1つの手法であることが明らかとなった。

また、この研究を通してご縁をいただいた赤坂台介護サービス喜ら里様とは、今後も地域交流の一環として関わっていききたい。

プログラムを実践する上で一番大切だと感じたことは、「参加者が安全に、安心して作業できるようにすること」である。今後も安全・安心を最優先したプログラム運営を心掛けていきたい。

### <新たな発見>

この研究を通して、『子どもを対象とした木工旋盤でのプログラムの可能性』『木製品をつくらなくても製作を観ることで刺激を与えられることができ、対話が生まれる』などが新たな発見となった。今後の工房経営に活かしていきたい。

## 6 今後について

今回の研究で得られた経験をもとに、開業後は以下のような木工旋盤でのものづくりプログラムを開発していきたい。

- 親子向けプログラム
- 高齢者向けプログラム
- 食にまつわるプログラム〔皿・椀〕
- 1日プログラム・複数日プログラム

最後に、愛知県豊川市で開業するシェア工房では、『地域の人たちに休める場を提供する』というコンセプトのもと、幅広い年齢層の方々に木工旋盤でのものづくりの楽しさや、木製品の素晴らしさを伝える場となることを目指していきたい。